

竜宮へ行って来た男     = = =     三州横山話より

昔、滝川村の滝川宋兵衛と言う男が、材木を川上から流して二ノ滝にさしかかると、その材木が全部滝壺に落ち込んだまま、いつまで待っても浮かんで来ないので、腹を立てて、刀を持って滝壺に飛び込んで行ったと言います。そしてだんだん奥深く潜って行くと、遙か向こうに竜宮が見えたので、急いでゆくと、竜宮では、この男の材木をみんな薪にして、ちょうどその時、籠に入れて燃そうとしているところなので、さっそく王様に面会してだんだん事情を話して、その非を責めると、それでは一鍬山のカイクラへ浮かべてやるから、帰って待っているとと言われて、急いで帰って来たそうですが、自分にはその間がわ



ずか三時ばかりと思ったのが、家へ帰って見ると、ちょうど三年忌の最中であつたと言いました。そして材木は無事五里ばかり下流のカイクラへ浮かんだと言います。

大淵 鵜の首

二の滝から2百メートル位下ったところが大淵で、その淵に流れ込むところを鵜の首といいます。大淵がちょうど鵜が羽を広げたような形をしているので、この様な名が付いたと思われます。大水の時は、川が上の岩盤と同じ高さで平らになって、一気に二十メートルほど流れ落ち壮大な滝になります。そのため鵜の首から大淵にかけて、深くえぐられていつまでたっても埋まって浅くなることはありません。竜宮に通じていると言い伝えられているのは、この鵜の首のところす。

川小僧だった私達も、二の滝は鰻を捕りに潜りましたが、鵜の首だけは潜った者はありません。淵を泳いで渡るときに、淵が大きすぎて水が替わらないのか、水面から五十センチぐらい下は、異常に冷たかったのを覚えています。

竜宮まで通じているか定かではありませんが、二十メートルは優に超える深さがあると思われます。